

カケルフクシで 広がる輪

フクシ
福祉はこんなにも、日常にあふれてる。

皆さんは「福祉」という単語から何を連想しますか？
「介護」「障がい」「保育」という専門的な言葉であったり
「やさしさ」「怖さ」といった感情をイメージする方もいるかもしれません。
今回紹介する「カケルフクシ」は
「福祉という言葉にとらわれない発想」を起点に生まれました。
記事を読んで、福祉をより身近に感じていただけると嬉しいです！

「えん展」の様子

職員が描いたチョークアート



カケルフクシの思考とは
”いろいろな切り口と福祉を掛け合わせて
新たな企画や支援に活かしていく。”
これがカケルフクシの定義となります。
切り口は日常の至る所にあふれていて、
職員の趣味や特技から支援方法につな
がったり、「カフェ」や「アート」をテーマに
してみたら大きな企画につながったりと、
福祉には無限大の可能性があります。
足羽福祉会ではこのような創造性を福
祉の魅力ととらえ、研修に取り入れる等、
職員全員がこの思考をもって仕事に取り
組んでいただくよう、積極的に啓発を行っ
ています。

運動 × フクシ

活用例①バスケットボールを通じて

バスケットがあつて
今がある

小学校から短大までバスケットをしていたのですが、スポーツ少年団(以下スポーツ)のコーチをしている友人から「女のママコーチとして、女性目線で指導してほしい」とお誘いを受けたことがきっかけで、2021年の夏から息子といつしよに入団しました。現在は4〜5日、こども園での勤務が終わった後に通っています。



足羽東こども園 E・Iさん
バスケットボールのスポーツ少年団の指導者経験で得た知識や発想を、保育活動の運動遊びの内容に取り入れている。

動物がテーマだから
おもしろい

スポ少でアニマルウォークに取り組む中で、これって私のクラスの子たちの体操メニューに取り入れるとすごく良いのではないか?と思いましたが、

今の段階から運動神経を刺激することで、中学生や高校生になったときにいろいろなスポーツの動きに対して楽



週5で指導しています!

年齢ごとに
楽しめるアイデアを
考えていきたい

4〜5歳児になるとフラフープやボールを使った遊びにもルールを設けたり、遊び方を応用してみたりするなど、年齢にあわせて楽しく遊べるように工夫していきたいです。加えて、他の先生の発想でいいアイデアだな、と思うものを参考にさせていただき、自分のアイデアを組み合わせた上で、より子どもたちが楽しめるような企画を実施していきたいです。



普段はパート職員として勤務

歩いたりだとか、熊のように四つん這いになって歩くなど、毎回動物の種類を変えて実施しています。

地域交流

フクシ

活用例② 地域交流を通じて

意識的に
福祉ニーズを聞いていく

高齢者福祉施設の愛全園では、認知症カフェや、憩いのサロンという地域の方々が集まれる場を公民館などに設け、地域の福祉ニーズを知るときっかけ作りを行ってきた。

他には、新型コロナウイルスの影響もあり実施には至りませんでした。子ども食堂を企画しました。「子ども」と「介護」は一見関係がないようにみえますが、お子さんの親世代の声をきいて、介護ニーズを知ることができま

すし、子どもが安らぐ場を提供できれば、地域貢献や施設の広報にもつながります。

このように、地域と関わる意識は自分の中で大切にしています。



地域を招く愛全園祭の様子



愛全園 M・Tさん
地域支援員として、地域に招く、出向くを意識した取り組みを率先して実施してきた、法人を代表するチャレンジ精神の持ち主。

気軽に誰もが楽しめる
イベントを開催

愛全園では「愛全園祭」というイベントを行っています。今は、部署ごとでの小規模形式となっておりますが、以前は地域の方も招いた大規模な祭りを秋口に開催していました。園内を開放し、気軽に施設の中を見られるようにしたり、参加者ごちゃまぜのくじ引き大会を開催する等、誰もが楽しめることを大切にしています。私自身も祭りを楽しみました。

福祉の仕事
＝ 支援ではない

今回の取材テーマがカケルフクシということで、私は地域交流を通じて「福祉の仕事＝支援ではない」ということを皆さんに知ってほしいです。地域支援の取り組みが再開できていない現状ではありますが、地域と関わることは職員にとっても地域にとっても福祉への視野を広げきっかけになると思います。これからも、そういった福祉マインドを後輩に伝えていきたいです。



地域に出向く介護予防運動の啓発



菜園×フクシ



餅つき×フクシ



マラソン×フクシ

カケルフクシで 想いをつなぐ



ヨガ×フクシ



バルーンアート×フクシ

【記事をかいてみて】
差別や偏見がまだまだ社
会課題となっている現代に
おいて、私たちのやるべき
ことはなんなのかを考えた
時に、それは日常で福祉に
触れる機会をもっと作って
いくことであると私は思い
ます。福祉をより身近に感
じてもらうことで、最初は
交わらなかつた線と線が私
たちの想像によって結ばれ
る。人と社会とをつなぐ架
け橋になっていきたいと、
今回の特集記事を書いて強
く思いました。

法人本部 丹代